

# 京大で現代自セミナー

2011.11.16

## 塩地教授が テーマ講演 競争力要因探る

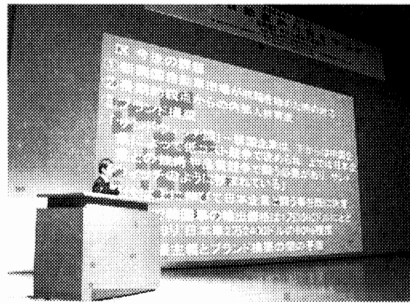
にした。

【京都】京大東アジア経済研究センターは、学内の百周年時計台記念館百周年記念ホール（京都市左京区）で、中国自動車シンポジウム「現代自動車から何を学ぶか―新興国における競争力要因―」を開催した。写真。韓国現代自動車の成長要因やグローバル戦略などをテーマに大学研究者ら8人が講演した。

同シンポジウムは毎年秋に開催する。今回は世界シェア（市場占有率）を急伸し注目が集まる現代自動車をテーマ

冒頭で、京大院経済学研究科の塩地洋教授が全体テーマの講演を行った。中国市場における現代自と他社の低価格帯車の数を紹介し、「現代自は新興国のポリウムゾーンである低価格帯にモデル数が多い」と同社の戦略を分析した。性能や品質などの向上意欲にも触れ、日本メーカーの課題として「現代自のように顧客が品質の良さを直接実感できるようにする努力が必要」と述べた。

日刊自動車新聞



塩地教授の講演後は、2部構成をとり、第1部は「グローバル戦略」、第2部は「日系メーカーとの差別化」をテーマに、7人の研究者らが講演した。

第1部では4人が講演した。事業創造大学院大の富山栄子教授は「現地適合理化をめ

ざした商品企画・製品開発プロセス」をテーマに講演した。同教授は「日本メーカーは新興国市場をひとまとめにしたモデル展開を行うが、現代自は国単位として市場を分割している」と分析。現代自の現地適合理化への意欲の強さを指摘した。アジア自動車調査月報の中田徹編集長は「現代自のグローバル戦略と中国事業」について、東京都大

都市生活学部井上隆一郎教授は「外資メーカーブランドの中で現代ブランド」について講演した。三菱総合研究所主任研究員の赤羽淳氏は異なった視点から「アンケート調査に見る北京現代ユーザーの特徴」について講演し、アンケート結果をもとにした現代自の顧客層を示した。

第2部では、愛知大経済学部の李泰王教授が「現代自動車のサプライヤー・ユーザー関係の再構築」をテーマに講演。現代グループが設立した総合部品メーカー・現代モビビスの役割の大きさを指摘した。東大院経済学研究科の除寧教授は「北京現代のモノづくり思想」をテーマに現代自の海外展開に適した生産体系を分析。大商大総合経営学部の孫飛舟教授は内陸・下級都市にも重点をおいた流通ネットワークについて講演した。

同シンポジウムは26日にも京大東京オフィス（東京都港

区）で開催する予定。